

“Cultivate your own garden”

— 「学びの庭」を耕すこと

今年度の履修要項をお届けします。新年度を迎え、新たな気持ちで一年の計画を立てるべきひととき、教学上の大切な情報の基本はこの履修要項に記されています。様々なメディアで情報が溢れる時代であるからこそ、どうかじっくりと静かな心で読んでください。

同志社大学文学部では、五学科それぞれが専門性を核としながら、幅広い知識を学ぶことができるカリキュラムを提供しています。また学科の枠を越えて、10種類の副専攻制度をそろえていますので、自分の専門性を違った角度から考え、また自分の興味を関連分野に広げることできます。1年生から4年生まで、それぞれの年次に応じて何を学び、そこからまたどのように関心を広げ知を深めていくのか。中学校や高校と違って、大学は高等教育機関であり、「学生」である皆さんは「主体的に学ぶ」ことができます。

18世紀のフランスの啓蒙思想家ヴォルテールの小説の中に“*We must cultivate our own gardens*”という言葉があります。国を追われ、様々な苦難や試練に遭遇し、世界各地を転々とする旅の末に主人公がたどり着く境地を表した言葉です。人生に真摯に向き合って、自分の力で切り開いていくことの大切さを表しているのではないのでしょうか。“cultivate”という言葉は、ラテン語の“colere”（耕す）から派生したもので、「耕す、栽培する、才能などを養う、精神を陶冶する、学問を修める」など様々な意味があり、文化や教養を表す“culture”も同じ語源です。自然の中で季節に応じて土地を耕し、作物を育てるという人間の基本的な営みは、皆さんの学びの姿勢にも通じるものがあるのではないのでしょうか。時間をかけて、労力を惜しまず、計画的に主体的に学んでいくことで、教養を身につけ、人間力を培っていく。時には計画を修正したり、周囲の変化などに柔軟に対応しなければならないこともあるでしょう。

「主体的に学ぶ」ということは、必修科目を履修しながら、さらに自分の関心に応じて広く深く学ぶために、提供されている数多くの科目の中から選択することができるということです。まずは自分と向き合って、何が自分にとって大切であり、興味があるものなのか、多くの選択肢の中から選んでください。その選択の自由には、もちろん責任が伴います。この履修要項に明記されている履修条件や本学のサイトにあるシラバスを熟読して、受講者としての自己責任と自己管理を忘れずに、自分の学びを構築して行ってください。

同志社大学文学部という「庭」でどんな「学びの庭」を育てていくのか、その手がかりとして履修要項をまずはじっくり読んでください。そして自分の学びのデザインを創り出してください。どうか実りある収穫となりますことを、文学部教職員一同、心から願っています。

文学部長 石塚則子



特徴的なカリキュラム

副専攻制度

英文学科に在籍しているが、他学科の領域も学んでみたい。美学芸術学科に在籍しているが、学科横断的なテーマについても体系的に勉強してみたい。文学部の副専攻制度はそんな学生さんの要望にこたえるための制度です。

2013年4月より、副専攻コース「国際専修コース」の履修が始まりました。「国際専修コース」の登録が許可された場合、ILA（国際教育インスティテュート）の科目を特別に履修することができます。ILAは、英語で行われる授業のみで学位取得ができる留学生向けのプログラムです。授業はすべて英語で行われ、履修した単位は卒業単位にも算入されます。当コースに応募するためには、TOEFL-ITP® のスコアシートの提出が必要となりますので、希望者は早めに受験しておく必要があります。

▶副専攻制度については、11頁より詳しく掲載しています。

少人数単位の授業、ゼミナール

文学部では全ての学科で演習（ゼミ）を必修とし、4年間の集大成として卒業論文の提出を課しています（2012年度以前の英文学科生は希望者のみ提出）。また、全ての学科で1年次から初年次教育（基礎演習など）を実施し、専門分野を学ぶにあたって必要な知識（資料の調べ方など）を学び、基礎を固めます。特に演習（ゼミ）は少人数で行われるため、先生との距離感も近く、全学生にゆきわたった指導体制が整えられています。

全学共通教養教育科目

全学共通教養教育科目とは、同志社大学に在籍する全ての学生を対象とした共通の教養教育カリキュラムです。幅広い学問分野において充実した科目を多数開設しており、本学の建学の精神である「良心教育」を「キリスト教主義」、「自由主義（自治自立の精神）」、「国際主義」の3つの教育理念に基づき、リベラルアーツ教育の伝統を受け継ぎながら展開しています。教養教育科目を通じて、創立者 新島襄が願う「良心と自治自立の精神」に満ちた、国際社会に貢献できる人物の輩出を目指しています。なお、文学部では履修した科目の単位は卒業単位に算入されます。

（たとえば…）

【同志社科目】…同志社大学の建学の精神やキリスト教について学びます。

【プロジェクト科目】…企業や地域社会の方々から提案されたテーマに、自らが計画をし、行動する実践型の授業です。

その他、キャリア形成支援科目や国際教養科目、複合領域科目など、従来の人文・社会・自然科学系の科目以外にも、幅広い分野で多数の科目が用意されています。

▶科目登録・詳細については『2018 全学共通教養教育科目 履修要項』（別冊）を参照してください。

科目履修について

学位の取得に必要なこと

文学部で学位を取得するためには、4年以上修学し（※在学中に休学するとその期間は修学したことになりません）、所属する学科が定めるカリキュラムに沿って授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければなりません。卒業要件を満たした場合、卒業する学科によって次の学位が授与されます。

英文学科／学士（英文学）、哲学科／学士（哲学）、美学芸術学科／学士（美学芸術学）、
文化史学科／学士（文化史学）、国文学科／学士（国文学）

文学部のカリキュラム体系

文学部は、学科の専門分野を体系的に学ぶことができるよう、授業科目を「必修科目」「選択科目Ⅰ～Ⅲ」「自由科目」「免許・資格関係科目」に分けて開講しています。所属する学科の卒業要件を確認の上、履修してください。

科目群	群の性格
必修科目	学科の専門分野を学ぶ上で、核となる科目群です。段階的に学べるよう、科目ごとに履修年次が定められています。
選択科目Ⅰ	必修科目を基盤にして、専門性を充実させるための関連科目群です。定められた条件の中で、自分の関心に応じ、科目の選択が可能です。
選択科目Ⅱ	専門分野を補完するため、他の領域を学ぶことができる科目群です。全学共通教養教育科目は、分野によって区分されています。 ■全学共通教養教育科目（2018年度生） 同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目 ■全学共通教養教育科目（2011～2017年度生） 同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端・複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目 ■全学共通教養教育科目（2009～2010年度生） 同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目、教養演習科目、学際科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目 ■免許・資格関係科目 ■他学科・他学部設置科目 ※他大学との単位互換制度や外国協定大学への留学制度を利用して修得した単位も、選択科目Ⅱの単位として算入することができます。
選択科目Ⅲ (英文学科、文化史学科については選択科目Ⅱ)	外国語科目を学ぶ科目群です。 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語（ハングル）の7言語をレベルに応じて学ぶことができます。(学科・コースにより言語が指定されている場合や、上記以外の言語を選択できる場合があります。)
自由科目	卒業に関わらず、関心のある分野を自由に学ぶ科目群です。
免許・資格関係科目	教職免許や学芸員・司書など、資格取得を目的とした科目群です。 ▶詳細は『免許・資格関係履修要項』（別冊）を参照してください。

科目群の履修にあたって…

必修科目、選択科目Ⅰ～Ⅲ

それぞれの科目群で開講される科目は、年度によって曜日講時や担当者が変わります。

また、「履修できる学年」や「登録の条件」、「卒業単位」等は、学科ごとに定められています。

学科によって、履修しなければならない外国語が指定されている場合や、履修しても卒業単位に算入されない外国語などが定められていることがあります。

▶詳細は、後の頁で紹介する所属学科の「卒業要件」を参照してください。

免許・資格関係科目

教員免許状の取得や図書館司書・博物館学芸員などの資格取得のためには、それぞれの課程で定められた単位を履修する必要があります。その際、免許・資格のために修得した単位が、同時に卒業単位にも算入される場合とそうでない場合があります。学科によって取扱が異なりますので注意してください。

また、1年間に登録できる単位数は**上限48単位**と定められていますので、免許・資格の課程を履修する場合は、卒業単位との兼ね合いを考え、計画的に履修することが必要です。なお、所定の手続き（※科目登録時に、種別欄に「M」を付けます）により「免許・資格関係科目」を登録する場合は、上限を超えて登録することができます。このような手続きをした科目を「**免許・資格登録科目**」とよびます。

「免許・資格登録科目」として登録（M登録）するには、履修を希望する免許資格課程の「仮登録（一般登録期間にDUETにて可能）」もしくは「課程登録（説明会出席等の所定手続きが必要）」を必ず行わなければなりません。手続き方法は免許資格課程や年次によって異なるので免許資格課程センターの掲示で確認を行ってください。

- ✓ 「免許・資格登録科目」として履修（M登録）した科目の単位は、卒業単位や副専攻の単位には算入されませんので注意してください。
- ✓ 「仮登録」もしくは「課程登録」を行った課程で定められている科目に限りM登録を行うことが可能となります。「仮登録」もしくは「課程登録」が完了していない場合、M登録することはできず登録エラーとなるので注意してください。

▶免許・資格の履修は、『免許・資格関係 履修要項』（別冊）を参照してください。

▶次頁のQ&Aを合わせて参照してください。

自由科目

卒業単位に算入することを目的とせず、関心のある科目を履修したい場合、所定の手続き（※科目登録時に、種別欄に「Z」を付けます）により、その科目を「自由科目」として登録することができます。ただし、自由科目として登録した科目は卒業単位や副専攻の単位として認められません。また、その評価は成績評価のGPA（平均点）にも算入されません。

- ✓ 「Z」を付けなくても、自由科目として取り扱われる科目がありますので注意してください。

▶次頁のQ&Aを合わせて参照してください。

⚠ 注意

一度履修した科目を複数回履修できません。

※科目コードが同一の場合、たとえクラスコードが異なっても同一科目とみなされます。

(例：16002334-001宗教学(1)①と16002334-002宗教学(1)②は同一科目としてみなします。)

Q&A 「免許・資格登録科目」と「自由科目」について

Q 教職免許を取得したいと思っています。そのためには、通常よりも多くの科目を履修しなければなりません。1年間の上限単位（48単位）を超えて登録することができますか？

A 「免許・資格登録科目」として登録する場合、上限を超えて登録することができます。上限を超えられる単位数は次のとおりです。

一課程履修の場合（例：教職課程「社会科」のみ）の場合 ▶ 「18単位」

二課程履修の場合（例：教職課程と図書館司書課程）の場合 ▶ 「22単位」

なお、「自由科目」は上限を超えて登録することができません。

Q 取得した単位は卒業単位や副専攻の単位に算入されますか？

A 「免許・資格登録科目」「自由科目」とともに、卒業単位や副専攻の単位には算入されません。

Q 評価は在学中に履修した科目のGPA（平均点）に算入されますか？

A 「免許・資格登録科目」「自由科目」とともに、GPA（平均点）には算入されません。

Q 免許資格の取得に必要な科目を「自由科目」として履修した場合、取得した単位は免許資格取得に有効ですか？

A 有効です。

Q 英文学科の学生です。2科目めとして「国語」の免許取得を目指しています。そのためには国文学科の「本来、他学科生が履修できない科目」を履修する必要がありますが、これらの科目の単位の扱いはどうなりますか？

A 2科目めの教職免許を取得する場合、通常は履修することができない他学科の科目を履修する場合があります。この場合、履修した科目は「自由科目」として扱われます。卒業単位や副専攻の単位には算入されません。

	免許・資格登録科目	自由科目
登録方法は？	科目登録時に「M」を付けて登録する。	科目登録時に「Z」を付けて登録する。
上限単位を超えての登録は？	YES (可)	NO (不可)
GPA（平均点）への算入は？	NO (算入しない)	NO (算入しない)
卒業単位への算入は？	NO (算入しない)	NO (算入しない)
免許・資格取得に有効？	YES (有効)	YES (免許・資格の課程に認定されている科目について有効)

※免許・資格関係科目を免許・資格登録科目として履修しない場合は、選択科目Ⅱの単位に算入されます。

科目登録について

登録単位数の制限

(1) 1年間の登録単位数の上限

1年間に登録できる単位数は、**48単位以内**です。ただし、春・秋各学期には最低2単位登録しなければなりません。

(2) 免許・資格関係科目を「免許・資格登録科目」として登録する場合の上限

免許資格の取得を目的とする場合、科目登録の際に「免許・資格登録科目」として申請すれば、(1)の上限(48単位)を超えて登録することができます。▶5頁参照

科目登録の方法

科目登録の詳細については『登録要領』(別冊)等を必ず参照してください。また、今年度が開講される科目は、『2018年度開講科目』(37頁～)に掲載しています。『登録要領』と合わせて参照してください。

科目登録は「春学期」と「秋学期」の初めの年2回可能ですが、なるべく春学期の科目登録時に一年間の履修計画を立て、秋学期の開講科目の登録も同時に行うようにしてください。特に最終学年の方は、卒業に必要な科目を全て登録していない場合、「卒業見込証明書」の発行ができませんので注意してください。

今年1年間の履修計画を立てます。

まず、所属する学科のカリキュラムを確認します。

▶本誌にて所属する学科の卒業要件を参照してください。

自分自身の学習目標を達成するため、この1年間に「どのような授業を履修すればよいのか」を検討してください。

履修科目を選びます。

2018年度開講科目(37頁～)を参照し、それぞれの科目の単位数や履修できる学年、担当者、開講校地、期間などを確認します。

科目の内容は『シラバス』(<https://syllabus.doshisha.ac.jp/>)を参照してください。

✓ 登録した科目を途中で放棄をすると評価に影響が出ます。自分の学びたい内容かどうかをよく確認してから、科目登録してください。

時間割は『2018年度文学部授業時間割表』(別冊)で確認します。

決められた登録期間内に、履修希望科目を登録します。

科目登録は、学修支援システム「DUET」で行います。

科目の中には「先行登録」が必要な場合があります。

✓ 外国語科目や実習科目など、一般登録より前に抽選などにより予め登録者を決めるものです。

科目登録は『開講科目』(37頁～)に記載された「登録コード」で行います。登録コードを間違えると正しい登録ができません。

✓ 同じ曜日・講時に2科目以上登録したり、連続する講時に京田辺・今出川で科目を登録した場合は「登録エラー」となります。

※登録期間中は、手続の確認等で問合せを行うことがありますので、必ず連絡が取れるようにしておいてください。

※DUETによる各種申請手続（WEBによる科目登録、先行登録、履修中止など）は、万全の体制を整えて準備していますが、予測不能なネットワーク障害やシステムのハード障害等が発生し、WEBによる手続が行えなくなる可能性があります。つきましては、申請手続期間中に大学側のシステムに重大なトラブルが発生し、手続が正常に行えなかった場合には、受付時間の延長や教室での受付に変更することがありますので、予めご注意ください。

なお、これらの臨時的対応については、DUETのお知らせにてご案内しますが、DUETが障害により稼働していない場合については、大学ホームページの「在学生のページ」にてお知らせします。

登録科目の確認をします。

□授業開始後、DUETより「登録科目確認表」をダウンロードし、登録エラーの有無を確認してください。エラーがある場合、必ず「登録修正」の手続きを行なってください。エラーがあるにも関わらず「登録修正」を行わない場合、強制的に登録が削除される場合があります。

□登録エラーがなく、計画どおりの科目登録ができていることを確認し、科目登録の手続きは完了します。

登録科目の履修を中止することができます（授業開始約1ヶ月後）。

授業開始約1ヶ月後に「履修中止」の期間を設けています。授業を約1ヶ月間受講した結果、自分の思っていた内容と違う等の理由で、登録を取り止めたい場合、それを申請することができる期間です。不本意なまま授業を続けた結果、その科目の評価がGPA（平均点）に及ぶことのないように設けられた制度です。

履修中止後の登録単位は、学期最低登録単位数（各学期2単位）を下回ることはできません。なお、秋学期登録変更期間には、春学期に履修を中止した単位について、年間登録単位数（上限48単位）の範囲で追加登録が可能です。

※通年科目は、春学期のみ履修中止することができます。

⚠ 注意

⚠ 科目登録に関する日程や教室などは、『登録要領』のほか、掲示板やホームページ等にも掲載されます。決められた期日を過ぎると手続きができませんので、十分に気をつけてください。

⚠ 就職活動や大学院受験のため、企業や大学院に提出する**卒業見込証明書**を発行するためには、**卒業に必要な科目を全て登録しておく必要があります**。春の登録の際には十分に気をつけてください。

履修中止により卒業に必要な科目の登録が無くなった場合、卒業見込証明書の発行ができなくなります。

成績評価について

成績評価はGPA（Grade Point Average）制度によって行なわれます。

GPA制度とは

履修した科目の成績は科目ごとに5段階〔A・B・C・D・F〕で評価されます。履修した科目全体の評点平均値はGPA（Grade Point Average）として算出され、在学中の履修成績として成績原簿などに記載されます。なお、「F」評価を得た科目は単位の修得が認められません。

■GPAの判定基準

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

左記の段階評価のほかに、「合格」「不合格」「認定」の評価があります。

■GPAの算出方法（①～⑥はA～Fの評価が付いた科目の単位数の合計）

$$\frac{\text{①} \times 4.0 + \text{②} \times 3.0 + \text{③} \times 2.0 + \text{④} \times 1.0 + \text{⑤} \times 0.0}{\text{①} + \text{②} + \text{③} + \text{④} + \text{⑤}}$$

F評価科目もGPAに算入されます！

F評価科目の書き換え

GPA制度では、F評価であった科目を再履修してD評価以上を得た場合、直近のF評価は新たな評価に書き換えられます。（科目コードが同じであれば、クラスコードが異なっても書き換えられます。）

■再履修回数1回の場合（例）

履修年度	科目名・クラス	評価		履修年度	科目名・クラス	評価
2017	English Skills(1)	F	書き換え	2018	English Skills(1)	C

2017年度の「F」評価が、2018年度の「C」評価によって書き換えられます。書き換えにより、2017年度の「F」評価の評点「0.0」はGPAに算入されなくなります。

■再履修回数2回の場合（例）

履修年度	科目名・クラス	評価		履修年度	科目名・クラス	評価
2016	English Skills(1)	F	成績確定	2016	English Skills(1)	F
2017	English Skills(1)	F	書き換え	2018	English Skills(1)	C

2017年度の「F」評価により、2016年度の「F」評価は確定。これにより、成績通知書には、この「F」評価が記載され、評点「0.0」はGPAに算入されます。また、2017年度の「F」評価が2018年度の「C」評価によって書き換えられます。書き換えにより、2017年度の「F」評価の評点「0.0」はGPAに算入されなくなります。

⚠ 注意

GPA制度では、不合格科目も評定平均値に算出されますので、科目登録は慎重に行なってください。（未受験、放棄の場合もGPAに算入されます。）

GPAに算入されない科目

単位互換科目、単位認定科目

同志社女子大学や大学コンソーシアム京都の単位互換制度、早稲田大学学部交流生制度、在学留学制度などによって修得した単位は、A・B・C…評価ではなく、「合格」「不合格」「認定」によって評価されます。これらの評価については、GPAに算入されません。

合否評価科目

受講する学生の申告により、評価を「A・B・C…」評価で表すか、「合格」「不合格」評価で表すかを選択できる科目が「合否評価科目」です。この場合、「合格」「不合格」評価を希望して得た評価は、評点の算出を行わず、GPA算出の対象にもなりません。また、合否評価科目において「合格」あるいは「不合格」の評価を希望する場合は、科目登録時に、登録コードに「P」の記号を付与して登録します。なお、**文学部では「P」を付与して修得した単位は、卒業単位に算入されません**ので注意してください。

(文学部には上記「合否評価科目」はありません。他学部の設置科目を履修する場合、その学部の履修要項に「P」の表記がある科目に限り、登録することができます。)

※「Academic Skills」、「留学ワークショップ(2)」（英文学科）、「教職実践演習(中・高)」（英文学科、国文学科、免許・資格関係科目）、「Intensive Courses for TOEFL (Practice)・(Tutorial)」（全学共通教養教育科目）については、「合格」「不合格」評価のみとなります。

自由科目

(1)「自由科目」群として設置される科目

「単位を修得しても卒業単位として扱われない科目」を自由科目といいます。自由科目の評価は、同時にGPAにも算入されません。自由科目については、本誌「開講科目一覧」に掲載していますので、よく確認して登録してください。なお、自由科目として登録する単位は、1年間の登録制限単位数に含まれます。

(2)自己申告による「自由科目」

「履修をしたいが、GPAの対象としたりたくない」という場合、科目登録時に、登録コードに「Z」の記号を付与すると「自由科目」として履修することができますが、「自由科目」として履修した科目の単位は、卒業単位や副専攻の単位として認められません。また、1年間の登録制限単位数に含まれます。

GPA制度にともなう制度

■履修中止制度

春、秋各学期の授業開始1ヶ月頃に、履修中止期間が設けられます（**日時は大学ホームページ参照**）。実際に授業を受講した結果、望ましい評価が得られないと判断した場合、この制度を利用して科目の履修を中止することができます。

■追試験制度

学部学生（正規学生、科目等履修生、外国人留学生特別学生）の全年次生を対象として、病気またはやむを得ない事由により、定期試験、ならびに臨時試験（中間テスト等）を受験できない場合、追試験の申請を行うことができます（**詳しくは本誌「学業履修について」の紹介頁を参照**してください）。

■成績評価結果の公表

各学部・研究科が定める科目を除き、授業クラス毎の平均点や、評点の分布を大学ホームページ上で公表します。

■クレーム・コミッティ制度

受講している科目の授業内容や授業方法に関する改善の要望・成績に対する質問がある場合は、今出川キャンパス教務センター（文学部）に相談してください。クレーム・コミッティが授業担当者に問い合わせ、回答します。なお、相談者の学生IDや氏名が授業担当者に明かされることはなく、相談によって決して不利益を被ることはありません。

副 専 攻

■ 12頁 ■

2018～2010年度生対象

■ 12頁 ■

副専攻概要

■ 16頁 ■

学科型副専攻

■ 19頁 ■

横断型副専攻

■ 28頁 ■

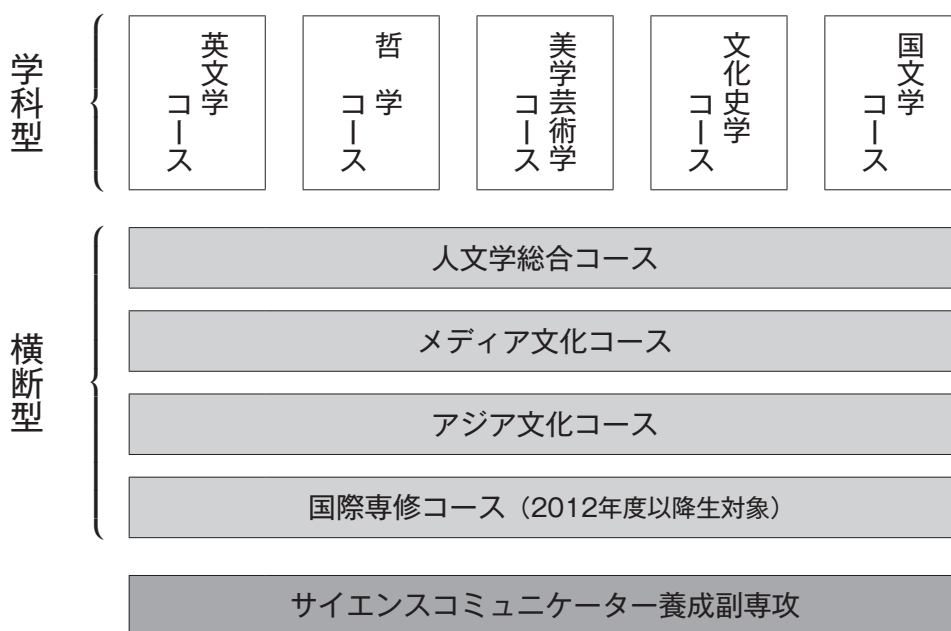
サイエンスコミュニケーター養成副専攻

副専攻制度について

文学部には、自分の所属する学科での専門教育とは別に、学びのチャンスを広げ、特定のテーマを深めることができる副専攻の制度があります。

副専攻ってどんな制度？

✓ 副専攻には、下記の10種類があります。



学科型副専攻

「学科型副専攻」とは、自所属以外の学科を選択し、その授業を体系的に履修することができる制度です。この制度を利用することで、例えば下記のような学びが可能になり、柔軟かつ多角的な思考力を養うことができます。

- 英文学科の学生が「国文学コース」を副専攻し、アメリカ文学とともに日本文学を学ぶ。
- 美学芸術学科の学生が「哲学コース」を副専攻し、「美学」の理解に哲学的手法を取り入れる。

横断型副専攻

「横断型副専攻」とは、自分の所属する学科の枠を超えて学際的に学ぶ制度です。「横断型副専攻」には、「人文学総合コース」、「メディア文化コース」、「アジア文化コース」、「国際専修コース」の4つのコースがあり、コース毎に、テーマに合致する様々な科目が、学部や学科にとらわれず配置されています。

人文学総合コース

各学科におけるそれぞれの専門研究に必要な人文教養の幅を広げることを目的とします。文学部で学ぶことの意義を最大限に活用して、豊かで深い見識と広い視点から日本と世界の文化を考察する素養を身につけてもらいたいと思います。

メディア文化コース

劇場文化論系、出版文化論系、言語文化論系の3分野から言語と文化の総合的理解を目指します。文学部が蓄積してきた演劇と劇場、活字と書物、言語と文芸に関する広範で深遠な教育・研究の成果に触れてみてください。

アジア文化コース

「アジアの中の日本」や「東洋と西洋との関係」という視点でアジアの文化や文学について理解を深めることを目的とします。文学部では、日本と西洋を研究対象にすることが多いのですが、本コースを履修し、学びの幅を広げ、21世紀にふさわしい教養人を目指してください。

国際専修コース

国際専修コースでは、国際教育インスティテュートが提供する日本の社会・文化領域を扱うJapanese Society and Global Culture Concentration科目（2015～2012年度生はJapanese Society and Global Culture Cluster科目）を、世界各国からの留学生たちと一緒に履修します。

国際教育インスティテュートの授業は、すべて英語で行われ、米国のLiberal arts collegeの授業と同じく、ディスカッションを中心とした少人数の双方向授業です。国際専修コースを履修する学生は、諸外国からの留学生とともに英語で学び、意見を交わす体験にもとづいて世界と真に対話できる力を持つことを目指します。

サイエンスコミュニケーター養成副専攻

「サイエンスコミュニケーター養成副専攻」とは、文系理系を問わず参画学部の学生を対象に、科学分野でおこる社会問題を正しく読み解き、解説できる人材を養成する副専攻です。

地震などによる災害、原発事故、環境問題、STAP細胞問題、医学部や製薬企業などのデータ改ざん・論文ねつ造などが大きな社会問題となっている今日、科学リテラシーをもつ人材は、企業を含め広く社会から求められています。科学リテラシーとは、自然界で起こる様々な事象や変化を正しく理解し、自己の意志決定をするために、科学的知識を用いて問題を明確にしたうえで結論を導き出す能力のことです。

履修生の就職先は、各種企業、マスコミ、出版社、教育機関そして官庁などを想定していますが、研究倫理や科学リテラシーを履修した学生は今後、社会のあらゆる分野において活躍が期待されます。

✔ 従来履修できない科目を履修できるチャンスがあります。

副専攻制度の特徴は、その分野、テーマに関連する科目を「体系的」に履修するということにあります。このため、特定の学科に所属する学生だけに履修を制限している科目を履修できる場合があります。たとえば、美学芸術学科の学生でも副専攻制度を利用すれば、哲学科生だけが履修を認められている、「演習Ⅰ」（ゼミ）を履修することができます。

✔ 副専攻で履修した単位も、卒業単位に算入できます。

副専攻で履修した単位は、卒業単位として算入できます。早期から十分に計画を立てて履修しましょう。

✔ 副専攻を履修した証明書を発行します。

在学中に、副専攻修了見込となった場合または修了に必要な単位を全て満たした場合、「修了見込」の文言が記載された副専攻履修証明書の発行が可能になります。

また、卒業時に修了に必要な単位を全て満たした場合、「修了」の文言が記載された副専攻履修証明書の発行が可能になります。

履修手続き・日程など

副専攻を行うには、副専攻の申し込みを行う必要があります。副専攻の申し込みは、原則として2年次の春学期履修科目登録期間に行います（国際専修コース、サイエンスコミュニケーター養成副専攻を除く）。

副専攻		申し込み方法	その後
学科型	英文学コース	2017年度生の申し込みは、 2018年3月下旬～4月上旬に DUETで行うこと。 ▶詳細は掲示板、DUET参照	通常どおり科目登録
	哲学コース		
	美学芸術学コース		
	文化史学コース		
	国文学コース		
横断型	人文学総合コース	2018年度の申込受付（2017年度生対象）は既に終了しました。	
	メディア文化コース		
	アジア文化コース		
	国際専修コース （2012年度以降生対象）	2018年度の申込受付は既に終了しました。	
サイエンスコミュニケーター養成副専攻		2018年度の申込受付は既に終了しました。	

※2019年度の申込受付（国際専修コースは2018年度生対象）は、2019年1月または2月に実施予定です。（詳細は掲示またはDUETで案内します。）

⚠ 注意

- 副専攻の履修のために所属学科が定める登録制限単位数を超えて登録することはできません。
- 免許・資格登録科目(M)、自由科目(Z)は、副専攻の単位として認められません。
- 一旦副専攻を申し込むと、中断することはできません。最後までやり遂げる意思と、明確な履修計画を持って申し込んでください。
- 下記科目については、副専攻履修2年目から履修可能です。履修開始前に必ず予備登録を行い、指定されたクラスを登録してください（「東洋文化史演習（1）・（2）」は予備登録不要）。予備登録の実施時期など詳細は、決定次第、掲示板またはDUETで告知します。なお、下記科目については、副専攻用の登録コードがあります。記載の登録コード以外で登録、履修した場合は、副専攻の単位として認められません。

学 科	科目名	登録コード		予備登録の有無
		科目コード	クラスコード	
英 文	Sophomore Seminar I	10210877	※※※	必要
	Sophomore Seminar II	10210878	※※※	必要
	基礎演習 I	10210453	※※※	必要
	基礎演習 II	10210454	※※※	必要
哲 学	演習 I (1)	10240210	※※※	必要
	演習 I (2)	10240211	※※※	必要
美 芸	演習 I (1)	10260109	※※※	必要
	演習 I (2)	10260110	※※※	必要
文化史	演習 B I (1)	10270610	※※※	必要
	演習 B I (2)	10270611	※※※	必要
	東洋文化史演習 (1)	10270401		不要
	東洋文化史演習 (2)	10270402		不要
国 文	演習 I (1)	10280010	※※※	必要
	演習 I (2)	10280011	※※※	必要

△ ※※※は、受講するクラスによってコードが異なります。

Q&A 「副専攻の履修」について

Q 学科型副専攻、横断型副専攻、サイエンスコミュニケーター養成副専攻の各副専攻を複数履修することはできますか？

A 可能です。ただし、それぞれ修了要件が異なりますので、注意して履修計画を立てることが必要です。なお、そのことによって登録制限単位数（48単位）が緩和されるなどの措置はありません。

Q 学科型副専攻、横断型副専攻の各コースを複数履修することはできますか？

A 可能です。ただし、それぞれ修了要件が異なりますので、注意して履修計画を立てることが必要です。なお、そのことによって登録制限単位数（48単位）が緩和されるなどの措置はありません。

Q 哲学科の学生です。横断型副専攻で、人文学総合コースを選択し、必修科目では、基礎演習を履修しようと考えています。基礎演習を副専攻の科目として履修した場合の単位は、哲学科でどのように扱われるのでしょうか？

A 副専攻を申請した学生が、所属学科以外の学科が提供する科目を履修した場合、取得した単位は卒業単位として扱われます（原則として「他学科・他学部等設置科目」として扱われます）。

Q 美学芸術学科の学生です。横断型副専攻で、人文学総合コースを選択し、必修科目では、美学芸術学科の「演習Ⅰ」を履修しようと考えていますが、可能でしょうか？

A 副専攻制度として履修する必修演習科目は、所属学科の演習科目は含みません。美学芸術学科以外の演習科目を履修してください。

Q 副専攻の履修を途中で断念した場合、それまでに修得した単位はどうなるのですか？

A 完修できなかった場合でも、卒業単位に算入されます。

Q 教職をとっています。免許・資格登録科目（科目登録時に「M」を付けて登録）として登録した科目は、副専攻の単位として認められますか？

A 認められません（免許・資格登録科目、自由科目として登録した科目は、副専攻の単位となりません）。

学科型副専攻

英文学コース

合計 (単位)	必修科目	選択科目 I B群
20	4	16
	科目名	科目名
	Sophomore Seminar I・II ※1	英米小説 I・II ※1
	基礎演習 I・II ※2	英米劇 I・II ※1
		英米詩 I・II ※1
		英語圏文学(1)~(8) ※1
		英米文学特論(1)~(20) ※1
		英米文化 I・II ※1
		英語文化特論(1)~(12) ※1
		日英語対照研究 I・II ※1
		外国語としての日本語教授法 I・II ※1
		応用言語学 I・II ※1
		英語学特論(1)~(13) ※1
		英語教育特論(1)~(6) ※1
		英米文学特論A(1)~(15) ※2
		英米文学特論B(1)~(15) ※2
		英語圏文学A(1)~(5) ※2
		英語圏文学B(1)~(5) ※2
		英語文化特論A(1)~(10) ※2
		英語文化特論B(1)~(10) ※2
		日英語対照研究(1)・(2) ※2
		英米文学入門 ※2
		英米文化入門 ※2
		英語学入門 ※2
		英語教育学入門 ※2
		英語教育学 ※2
		英語教育基礎論(1)~(5) ※2
		英語学特論(1)~(6) ※2
		英語教育特論(1)~(5) ※2
		英文学史 I・II ※2
		米文学史 I・II ※2
		キリスト教文学(1)・(2) ※2
		日英文化比較 I・II ※3
		日英文化比較(1)・(2) ※4
		英語学 I・II ※2
		言語学 I・II ※2
		英語史 I・II ※2
		英語音声学・音韻論 I・II ※2
		英語統語論 I・II ※2
		英語意味論 I・II ※2

△ 「必修科目」は副専攻履修2年目以降に履修可能。履修開始前に必ず予備登録を行うこと。

△ 「必修科目」は副専攻用の登録コードで登録すること(14頁参照)。

△ 「必修科目」は必ず指定されたクラスを登録すること。

△ ※1 2012年度以前生向け科目

△ ※2 2013年度以降生向け科目

△ ※3 2017年度以前生向け科目

△ ※4 2018年度以降生向け科目

哲学コース

合計 (単位)	必修科目		選択科目		
	演習科目	概論系科目	I A群	I B群	I C群
20	4	4	4	8	
	8				
	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
	演習 I (1)・(2)	哲学概論(1)・(2) 倫理学概論(1)・(2)	英書講読 I～IV 独書講読 I～IV 仏書講読 I～IV	西洋古代中世哲学史(1)・(2) 西洋近世哲学史(1)・(2) 西洋倫理学史(1)・(2) 宗教学概論(1)・(2)	現代哲学(1)・(2) 科学哲学(1)・(2) 歴史哲学(1)・(2) 社会哲学(1)・(2) 宗教哲学(1)・(2) 哲学特論(1)・(2) 社会倫理学(1)・(2) 倫理学特論(1)・(2) キリスト教精神史(1)・(2) 仏教学(1)・(2) 東洋哲学思想史(1)・(2) 東洋倫理思想史(1)・(2) ラテン語入門 I・II ラテン語講読 I・II ギリシャ語入門 I・II ギリシャ語講読 I・II

- △ 「演習 I (1)・(2)」は副専攻履修2年目以降に履修可能。履修開始前に必ず予備登録を行うこと。
- △ 「演習 I (1)・(2)」は副専攻用の登録コードで登録すること(14頁参照)。
- △ 「演習 I (1)・(2)」は必ず指定されたクラスを登録すること。

美学芸術学コース

合計 (単位)	必修科目	選択科目	
		I B群	I C群
20	12	4	4
	科目名	科目名	科目名
	美学概論(1)・(2) 芸術学概論(1)・(2) 芸術史概論(1)・(2)	西洋美術史概説(1)・(2) 日本美術史概説(1)・(2) 美学特論(1)～(6) 芸術学特論(1)～(12) 東洋美術史(1)・(2) 美術史特論(1)～(6) 文献講読(1)～(10)	芸術学(1)・(2) 音楽学概論 I・II 演劇学概論 I・II 映画学概論 I・II デザイン理論 I・II 文芸学概論 I・II 芸術批評論 I・II 現代芸術論 I・II 芸術情報論 I・II

文化史学コース

合計 (単位)	必修科目	選択科目		
		I A群	I B群	I C群
20	8	12		
	科目名	科目名	科目名	科目名
	日本文化史概説 ※1 日本文化史概説(1)・(2) ※2 西洋文化史概説(1)・(2)	日本史学史 ※1 日本史学史(1)・(2) ※2 日本美術史(1)・(2) 日本思想史(1)・(2) 日本社会史(1)・(2) 考古学概論(1)・(2) 民俗学(1)・(2) 日本地域史研究 ※3 日本地域史研究(1)・(2) ※4	東洋文化史概説(1)・(2) ※6 中東イスラーム史概説(1)・(2) ※6 西洋思想史(1)・(2) 西洋社会史(1)・(2) 米国文化史(1)・(2) ※3 西洋文化史(1)～(8) ※3 オリエント・西洋古代史(1)・(2) ※4 西洋中世史(1)・(2) ※4 西洋近代史(1)・(2) ※4 アメリカ大西洋史(1)・(2) ※4 中東イスラーム史(1)・(2) ※5 中東イスラーム史特論(1)・(2) ※6 東アジア史特論(1)・(2) ※6 東南・南アジア史特論(1)・(2) ※6	キリスト教精神史(1)・(2) 東洋美術史(1)・(2) 東洋文化史概説(1)～(4) ※7 東洋史特論(1)～(4) ※7 文化史特論(1)～(6) 考古学実習 ※3 考古学実習(1)・(2) ※4 博物館学 I・II 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館情報メディア論 博物館教育論 博物館資料保存論 博物館展示論 人文地理学(1)・(2) 自然地理学(1)・(2) ※3 地理学総論(1)・(2) ※4 地誌学

△ ※1 2015年度以前生向け科目
△ ※2 2016年度以降生向け科目

△ ※3 2012年度以前生向け科目
△ ※4 2013年度以降生向け科目

△ ※5 2013～2017年度生向け科目
△ ※6 2018年度以降生向け科目

△ ※7 2017年度以前生向け科目

国文学コース

合計 (単位)	必修科目	選択科目		
		I A群	I B群	I C群
20	4	16		
	科目名	科目名	科目名	科目名
	演習 I (1)・(2)	日本文学講読(上代A～D) 日本文学講読(中古A～D) 日本文学講読(中世A～D) 日本文学講読(近世A～D) 日本文学講読(近現代A～E) 日本文学講読(広域A～D) 日本語学講読(A)～(D)	日本文学特殊講義(上代A～D) 日本文学特殊講義(中古A～D) 日本文学特殊講義(中世A～D) 日本文学特殊講義(近世A～D) 日本文学特殊講義(近現代A～E) 日本文学特殊講義(総合A～D) 日本語学特殊講義(A)～(D)	日本文学概論(1)・(2) 日本語学概論(1)・(2)

△ 「演習 I (1)・(2)」は副専攻
2年目以降に履修可能。履修
開始前に必ず予備登録を行
うこと。

△ 「演習 I (1)・(2)」は副専攻
用の登録コードで登録する
こと(14頁参照)。

△ 「演習 I (1)・(2)」は必ず指
定されたクラスを登録する
こと。

横断型副専攻

人文学総合コース

合計 (単位)	必修科目	A群	B群
20	4	16	
	科目名 演習科目	科目名 宗教・思想系	科目名 宗教・思想系
	英文 Sophomore Seminar I ※1 Sophomore Seminar II ※1 基礎演習 I ※2 基礎演習 II ※2	【文学部・哲学科】哲学概論(1)・(2) 【文学部・哲学科】倫理学概論(1)・(2) 【文学部・哲学科】宗教学概論(1)・(2) 【文学部・哲学科】キリスト教精神史(1)・(2)	【神学部】キリスト教史1・2 ※1 【神学部】キリスト教史入門1 ※2 【神学部】キリスト教史入門2 ※2 【神学部】組織神学2
	哲学 演習 I (1) 演習 I (2)	【文学部・哲学科】東洋哲学思想史(1)・(2) 【文学部・哲学科】東洋倫理思想史(1)・(2)	【神学部】ユダヤ学1・2 ※1 【神学部】ユダヤ学概論1 ※2
	美芸 演習 I (1) 演習 I (2)	【文学部・美学芸術学科】美学概論(1)・(2) 【文学部・美学芸術学科】芸術学概論(1)・(2)	【神学部】ユダヤ学概論2 ※2 【神学部】宗教学15・16 ※1
	文化史 西洋文化史演習 I (1) ※3 西洋文化史演習 I (2) ※3 演習 B I (1) ※4 演習 B I (2) ※4	【文学部・文化史学科】日本思想史(1)・(2) 【文学部・文化史学科】西洋思想史(1)・(2)	【神学部】仏教概論1 ※2 【神学部】仏教概論2 ※2
	国文 演習 I (1) 演習 I (2)	【文学部・文化史学科】歴史・文化系 【文学部・美学芸術学科】芸術史概論(1)・(2) 【文学部・美学芸術学科】西洋美術史概説(1)・(2) 【文学部・美学芸術学科】日本美術史概説(1)・(2) 【文学部・文化史学科】文化史学概論 ※1 【文学部・文化史学科】文化史学概論(1)・(2) ※2 【文学部・文化史学科】西洋文化史概説(1)・(2) 【文学部・文化史学科】日本文化史概説 ※5 【文学部・文化史学科】日本文化史概説(1)・(2) ※6 【文学部・文化史学科】東洋文化史概説(1)・(2) 【文学部・文化史学科】東洋文化史概説(3)・(4) ※7 【文学部・文化史学科】中東イスラーム史概説(1)・(2) ※8 【文学部・文化史学科】日本美術史(1)・(2)	
		言語・文学系 【文学部・英文学科】言語学 I・II 【文学部・英文学科】英語学 I・II 【文学部・英文学科】英米小説 I・II ※1 【文学部・英文学科】英米詩 I・II ※1 【文学部・英文学科】英米文学入門 ※2 【文学部・英文学科】英米文化入門 ※2 【文学部・英文学科】英文学史 I・II 【文学部・英文学科】米文学史 I・II 【文学部・美学芸術学科】文芸学概論 I・II 【文学部・国文学科】言語学概論(1)・(2) 【文学部・国文学科】日本語学概論(1)・(2) 【文学部・国文学科】日本語史(1)・(2) 【文学部・国文学科】漢文(1)・(2) 【文学部・国文学科】日本文学史(1)・(2) 【文学部・国文学科】日本文学概論(1)・(2)	

- △ 演習科目は副専攻履修2年目以降に履修可能。履修開始前に必ず予備登録を行うこと。
- △ 副専攻用の登録コードで登録すること。(14頁参照)
- △ 演習科目は必ず指定されたクラスを登録すること。

- △ ※1 2012年度以前生向け科目
- △ ※2 2013年度以降生向け科目
- △ ※3 2012年度以前生向け科目
(2013年度以降は副専攻での履修不可)
- △ ※4 全年度生向け科目

- △ ※5 2015年度以前生向け科目
- △ ※6 2016年度以降生向け科目
- △ ※7 2017年度以前生向け科目
- △ ※8 2018年度以降生向け科目

コースのねらい

学科におけるそれぞれの専門研究に必要な人文教養の幅を広げる。

履修上の注意

- (1) 副専攻履修2年目以降(3年次以降)に、興味に応じて必修科目(演習科目)の中から、4単位以上履修する。ただし、副専攻制度として履修する演習科目には所属学科の演習科目は含まない。複数学科の演習を履修してもよい。
- (2) 副専攻履修2年目からの演習科目の履修を念頭に置きながら、宗教・思想系、歴史・文化系、言語・文学系の3分野の科目を16単位以上履修する。
- (3) 3つの系(科目群)については、「履修要件」ではなく、履修の「ガイドライン」として設置している。興味に応じて各学科の科目をバランス良く履修すること。各系の最低履修単位などの履修要件はない。

メディア文化コース

合計 (単位)	必修科目	A群 劇場文化論系・出版文化論系・言語文化論系 より1つ選択	B群
20	2	8	18
	科目名	科目名	科目名
	演習科目	劇場文化論系	メディア学系
英文	Sophomore Seminar I ※1	【文学部・英文学科】英米劇Ⅰ・Ⅱ ※1	【社会学部・メディア学科】情報行動論
	Sophomore Seminar II ※1	【文学部・英文学科】英米文学入門 ※2	【社会学部・メディア学科】世論と社会
基礎演習Ⅰ	※2	【文学部・哲学科】現代哲学(1)・(2)	【社会学部・メディア学科】
	基礎演習Ⅱ ※2	【文学部・美学芸術学科】演劇学概論Ⅰ・Ⅱ	現代メディア・ジャーナリズム論
哲学	演習Ⅰ(1)	【文学部・美学芸術学科】映画学概論Ⅰ・Ⅱ	【社会学部・メディア学科】マルチメディア論
	演習Ⅰ(2)	【文学部・美学芸術学科】芸術情報論Ⅰ・Ⅱ	【社会学部・メディア学科】
美芸	演習Ⅰ(1)	【文学部・国文学科】日本文学特殊講義(総合A)	メディア・リテラシー概論
	演習Ⅰ(2)	【文学部・国文学科】日本文学講読(広域A)	言語学系
文化史	西洋文化史演習Ⅰ(1) ※3	出版文化論系	【全教】メタ言語文化論1・2
	西洋文化史演習Ⅰ(2) ※3	【文学部・英文学科】英米文学特論(1)～(20) ※1	【全教】地域言語文化論1・2
	演習BⅠ(1) ※4	【文学部・英文学科】英米文学特論A(1)～(15) ※2	【全教】論理学(1)・(2)
	演習BⅠ(2) ※4	【文学部・英文学科】英語文化特論(2) ※1	【文学部・英文学科】英語学特論(9) ※1
国文	演習Ⅰ(1)	【文学部・英文学科】英語文化特論A(3) ※2	
	演習Ⅰ(2)	【文学部・哲学科】歴史哲学(1)・(2)	
		【文学部・美学芸術学科】芸術学特論(1)・(2)	
		【文学部・文化史学科】文化史特論(6)	
		【文学部・国文学科】日本文学特殊講義(総合B・C)	
		【文学部・国文学科】日本文学講読(広域B・C)	
		言語文化論系	
		【文学部・英文学科】	
		英語学特論(1)～(8)・(10)～(12) ※1	
		【文学部・英文学科】英語学特論(1)～(6) ※2	
		【文学部・英文学科】英語文化特論(12) ※1	
		【文学部・英文学科】日英語対照研究(1) ※2	
		【文学部・哲学科】倫理学特論(1)・(2)	
		【文学部・美学芸術学科】文芸学概論Ⅰ・Ⅱ	
		【文学部・文化史学科】西洋文化史概説(1)・(2)	
		【文学部・国文学科】日本語学講読(A)～(D)	
		【文学部・国文学科】日本語学概論(1)・(2)	
		【文学部・国文学科】日本語学特殊講義(A)～(D)	

- △ 演習科目は副専攻履修2年目以降に履修可能。履修開始前に必ず予備登録を行うこと。
- △ 副専攻用の登録コードで登録すること。(14頁参照)
- △ 演習科目は必ず指定されたクラスを登録すること。

- △ ※1 2012年度以前生向け科目
- △ ※2 2013年度以降生向け科目
- △ ※3 2012年度以前生向け科目
(2013年度以降は副専攻での履修不可)
- △ ※4 全年度生向け科目

コースのねらい

劇場文化論系、出版文化論系、言語文化論系の3分野からメディア文化の総合的理解を目指す。

履修上の注意

- (1) 副専攻履修2年目以降(3年次以降)に、興味に応じて必修科目(演習科目)の中から2単位以上履修する。ただし、副専攻制度として履修する演習科目には所属学科の演習科目は含まない。複数学科の演習を履修してもよい。
- (2) A群の3つの論系から1つを選び、8単位以上履修する。
選択したA群論系の8単位を含みA・B群から各学科の科目をバランス良く18単位以上履修する。
- (3) 副専攻申し込み時に3つの論系(劇場文化論系・出版文化論系・言語文化論系)から1つの論系を選んで申し込む。複数の論系を同時に選択して申し込むことはできない。申し込みの際にDUETでは、3つの論系を同時に申し込んでもエラーは出ないが、実際に同時に申し込むことは絶対に行わないこと。もし、同時に申し込んだ場合は、劇場文化論系>出版文化論系>言語文化論系の順番で1つの論系のみが有効な申し込みとして扱われる。

アジア文化コース

合計 (単位)	必修科目	A群	B群
20	2	18	
	科目名	科目名	科目名
	文化史 東洋文化史演習(1) 東洋文化史演習(2)	【文学部・哲学科】東洋哲学思想史(1)・(2) 【文学部・哲学科】東洋倫理思想史(1)・(2) 【文学部・哲学科】仏教学(1)・(2) 【文学部・美学芸術学科・文化史学科】東洋美術史(1)・(2) 【文学部・美学芸術学科】美術史特論(5)・(6) 【文学部・美学芸術学科】美学特論(5)・(6) 【文学部・美学芸術学科】芸術学特論(9)～(12) 【文学部・文化史学科】東洋文化史概説(1)・(2) 【文学部・文化史学科】東洋文化史概説(3)・(4) ※5 【文学部・文化史学科】中東イスラーム史概説(1)・(2) ※6 【文学部・文化史学科】東洋史特論(1)～(4) ※5 【文学部・文化史学科】東アジア史特論(1)・(2) ※6 【文学部・文化史学科】東南・南アジア史特論(1)・(2) ※6 【文学部・国文学科】日本文学特殊講義(総合D)	【全教】東洋史(1)・(2) 【神学部】イスラーム学5・11 ※3 【神学部】イスラーム概論1 ※4 【神学部】イスラーム概論2 ※4 【神学部】宗教学15・16 ※3 【神学部】仏教概論1 ※4 【神学部】仏教概論2 ※4 【法学部】東南アジア地域研究 【法学部】南アジア地域研究 【法学部】東アジア国際関係論 【法学部】中国政治史 【経済学部】アジア経済 ※1 【経済学部】中国経済 ※2 【経済学部】中国経済史 ※2 【経済学部】アジア経済 ※2 【経済学部】アジア経済史 ※2 【商学部】アジア経済論

△ 「東洋文化史演習(1)・(2)」は副専攻履修2年目以降に履修可能。
 △ 登録コードについては14頁参照。

△ ※5 2017年度以前生向け科目
 △ ※6 2018年度以降生向け科目

△ ※1 2011年度以前生のみ履修可
 △ ※2 2012年度以降生のみ履修可
 △ ※3 2012年度以前生のみ履修可
 △ ※4 2013年度以降生のみ履修可

コースのねらい

「アジアの中の日本」や「東洋と西洋との関係」という視点でアジアの文化や文学について総合的理解を深め、西洋との比較に偏りがちな文学部生の学びの裾野を広げる。

履修上の注意

(1) 【文化史学科生】

副専攻履修1年目以降(2年次以降)に必修科目(東洋文化史演習(1)・(2))から2単位以上履修する。

【文化史学科生以外】

副専攻履修2年目以降(3年次以降)に必修科目(東洋文化史演習(1)・(2))から2単位以上履修する。

(2) 指定された文学部科目や他学部科目のアジアに関する概論系科目を学科の偏りなく、18単位以上履修する。

国際専修コース／対象学生：2015年度以降生

合計 (単位)	Introductory	Intermediate	Advanced	Other Elective Courses
20	20			
	Course Name	Course Name	Course Name	Course Name
	What Makes Humans Human?	Media in Japan	Social Foundations of Education	Special Lecture Series
	Introduction to Japanese History	Japanese and World Literature	Nations and Nationalism	
	Manga and Anime Studies	World, Youth, and Pop Culture	Advanced Themes in Anthropology	
	Japanese Society and Culture	Ethnicity in Japan	Disaster Studies	
	Introduction to the Arts	Japan in the World: Cultural Flows and Diasporas	Social Inequalities in Japan	
	Introduction to Media and Communications	Social Foundations of Language	Colonialism and Imperialism	
	Introduction to Globalization	Asian Civilizations	Advanced Media Studies	
	World Civilizations	Modern Japanese History	Migration and Transnationalism	

コースのねらい

国際教育インスティテュートで諸外国からの留学生とともに英語で学び、意見を交わす体験にもとづいて世界と真に対話できる力を持つことを目指す。

履修上の注意

(1) 本コースでは、通常履修することができない国際教育インスティテュート (ILA) の科目を受講する。受講するためには後述の選考に通過する必要があり、選考を通過していない者は本コースの科目を履修することはできない。

▶ILAについての詳細は、ILAのホームページを参照のこと (<http://ila.doshisha.ac.jp/>)。

(2) 本コースでは、ILAのJapanese Society and Global Culture Concentration及びOther Elective Coursesから任意の20単位を履修する。当該ConcentrationのIntroductory (入門科目)、Intermediate (展開科目)、Advanced (発展科目) 及びOther Elective Coursesの何れを、どのような組み合わせで履修しても構わない。なお、当該Concentration及びOther Elective Courses以外のILA科目を履修することはできない。

(3) 本コースで履修可能な単位数は、30単位を上限とする (既に取得済みの単位と合わせて30単位を超えて登録をすることはできない)。

(4) 修得した単位は「他学科・他学部等設置科目」として卒業単位に算入される。各学科の専門科目や外国語科目の代わりとすることはできない。

選考について

ILAの授業は全て英語で行われ、また定員制を採用しているため、国際専修コースの履修に際して、下記の通り希望者に対して選考を行う。

(1) 選考時期

1年次の秋学期に希望者を募集する。(2018年度生は、2019年1月または2月に募集予定)
上記以外の時期には募集を行わない。

(2) 応募条件

下記の両方を満たすこと。

■TOEFL-ITP® 500点以上 (応募時点から過去1年以内に受験したTOEFL-ITP® に限る)

■1年次の春学期に16単位以上修得していること。

(3) 詳細について

日程・応募方法などは、詳細が決定次第、掲示またはDUETで告知する。

科目登録について

- (1) 上記選考に通過した者は、履修科目の登録を一般登録受付期間に各自DUETで行うこと。
- (2) 科目コード等は、後述の「国際専修コース科目一覧 (ILA)」を参照すること。
- (3) 1年次の秋学期に選考を通過した者は、以後選考を受けることなく科目登録することができる。

その他

- (1) ILAの授業は全て英語で行われるため、応募には一定レベル以上の英語能力が求められる。また、本コースは定員制であり、希望者に対して選考を行う。そのため、本コースを希望する者は入学時から計画的に英語能力を高めるように努めること。
- (2) 本コースの履修を希望する者は、在学中にコースを完修する明確なビジョンをもって応募することが求められる。途中で本コースの完修を諦めるような事態にならないようにすること。ただし、在学中に留学や、やむを得ない事情での休学等で一時的に履修を中断することは問題ない。
- (3) ILAの授業は少人数制を採用しており、学期途中での自己都合による欠席は授業運営に支障が出ることになる。本コースを希望する者は安易な気持ちで授業登録を行わないこと。
- (4) 募集に先立ち、1年次生を対象に秋学期に説明会を実施する場合がある。その場合は掲示またはDUETで告知する。

国際専修コース科目一覧 (ILA) / 対象学生：2015年度以降生

	Year 履修 年次	Registration Code 登録コード		Course Name, Class 科目名・クラス	Instructor 担当者	Term 期間	Credits 単位	Remarks 備考	
		Course Code 科目コード	Class Code クラスコード						
Japanese Society and Global Culture Concentration	Introductory	1-	12051201		What Makes Humans Human?	Bruce WHITE	Spring	2	
			12051202		Introduction to Japanese History	David UVA	Spring	2	
			12051203		Manga and Anime Studies	Omar Yusef BAKER	Fall	2	
			12051204		Japanese Society and Culture	Isabel FASSBENDER	Spring	2	
			12051205		Introduction to the Arts	Haruhisa KAWAMURA	Fall	2	
			12051206		Introduction to Media and Communications	Yumi MATANO	Fall	2	
			12051207		Introduction to Globalization	Gregory POOLE	Spring	2	
			12051208		World Civilizations	Masumi IZUMI	Fall	2	
	Intermediate	2-	12051209		Media in Japan	Sally MCLAREN	Fall	2	
			12051210		Japanese and World Literature	Thomas HACKNER	Spring	2	
			12051211		World, Youth, and Pop Culture	Omar Yusef BAKER	Spring	2	
			12051212		Ethnicity in Japan	Isabel FASSBENDER	Fall	2	
			12051213		Japan in the World: Cultural Flows and Diasporas	Gavin J. CAMPBELL	Spring	2	
			12051214		Social Foundations of Language	Gregory POOLE	Fall	2	
			12051215		Asian Civilizations	Philip Alan STREICH	Spring	2	
			12051216		Modern Japanese History	David UVA	Fall	2	
	Advanced	3-	12051217		Social Foundations of Education	Gregory POOLE	Spring	2	
			12051218		Nations and Nationalism	David UVA	Fall	2	
			12051219		Advanced Themes in Anthropology	Gregory POOLE	Fall	2	
			12051220		Disaster Studies	Bruce WHITE	Fall	2	
			12051221		Social Inequalities in Japan	Diane HARING	Spring	2	
			12051222		Colonialism and Imperialism	David UVA	Spring	2	
			12051223		Advanced Media Studies	Sally MCLAREN	Fall	2	
			12051224		Migration and Transnationalism	Bruce WHITE	Spring	2	
Other Elective Courses	1-	12051802	001	Special Lecture Series (Song Anthropology)	① Felicity GREENLAND	Fall	2		

△ 上記科目は、国際専修コースの選考を通過した学生のみが履修できる。

△ 文学部生は、上記以外のILA科目を履修することはできない。

△ 時間割および教室は、ILA授業時間割表で確認すること(文学部授業時間割表には掲載されない)。

ILA授業時間割表の配付方法は、別途掲示またはDUETで告知する。

△ シラバスは、ILAのHP【<http://ila.doshisha.ac.jp/>】で確認すること。

国際専修コース／対象学生：2014～2012年度生 ※2011年度以前生は本コースを履修することは出来ません

合計 (単位)	Introductory	Intermediate	Advanced	General Elective Courses
20	20			
	Course Name	Course Name	Course Name	Course Name
	Introduction to Contemporary Socio-Cultural Studies Introduction to Japanese History Introduction to Japanese Culture Introduction to Japanese Religion Introduction to Japanese Society Introduction to Japanese Education Media in Contemporary Japan Japanese Traditional Arts Introduction to Globalization World Civilizations	Japanese Modern Philosophy Japanese Modern and Contemporary Literature The Emperor System in Modern Japanese History Pop and Youth Culture in Japan Labor in Contemporary Japan Social Issues in Contemporary Japan 1 Gender in Contemporary Japan Social Welfare in Contemporary Japan Social Foundations of Language Asian Civilizations Modern Japanese History	Japanese Aesthetics Buddhism and Zen in Japan Multiculturalism in Contemporary Japan Ethnicity in Japan Japan in the World: Cultural Flows and Transitions Issues of Youth in Contemporary Japan Social Issues in Contemporary Japan 2 Social Stratification and the Class System in Japan Colonialism and Imperialism Advanced Media Studies Migration and Transnationalism	Special Lecture Series

コースのねらい

国際教育インスティテュートで諸外国からの留学生とともに英語で学び、意見を交わす体験にもとづいて世界と真に対話できる力を持つことを目指す。

履修上の注意

(1) 本コースでは、通常履修することができない国際教育インスティテュート (ILA) の科目を受講する。受講するためには後述の選考に通過する必要がある。選考を通過していない者は本コースの科目を履修することはできない。

▶ILAについての詳細は、ILAのホームページを参照のこと (<http://ila.doshisha.ac.jp/>)。

- (2) 本コースでは、ILAのJapanese Society and Global Culture Cluster及びGeneral Elective Coursesから任意の20単位を履修する。当該ClusterのIntroductory (入門科目)、Intermediate (展開科目)、Advanced (発展科目) 及びGeneral Elective Coursesの何れを、どのような組み合わせで履修しても構わない。なお、当該Cluster及びGeneral Elective Courses以外のILA科目を履修することはできない。
- (3) 本コースで履修可能な単位数は、30単位を上限とする (既に取得済みの単位と合わせて30単位を超えて登録をすることはできない)。
- (4) 修得した単位は「他学科・他学部等設置科目」として卒業単位に算入される。各学科の専門科目や外国語科目の代わりとすることはできない。

科目登録について

- (1) 上記選考に通過した者は、履修科目の登録を一般登録受付期間に各自DUETで行うこと。
- (2) 科目コード等は、後述の「国際専修コース科目一覧 (ILA)」を参照すること。
- (3) 1年次の秋学期に選考を通過した者は、以後選考を受けることなく科目登録することができる。

その他

- (1) ILAの授業は全て英語で行われるため、応募には一定レベル以上の英語能力が求められる。また、本コースは定員制であり、希望者に対して選考を行う。そのため、本コースを希望する者は入学時から計画的に英語能力を高めるように努めること。
- (2) 本コースの履修を希望する者は、在学中にコースを完修する明確なビジョンをもって応募することが求められる。途中で本コースの完修を諦めるような事態にならないようにすること。ただし、在学中に留学や、やむを得ない事情での休学等で一時的に履修を中断することは問題ない。
- (3) ILAの授業は少人数制を採用しており、学期途中での自己都合による欠席は授業運営に支障が出ることになる。本コースを希望する者は安易な気持ちで授業登録を行わないこと。
- (4) 募集に先立ち、1年次生を対象に秋学期に説明会を実施する場合がある。その場合は掲示またはDUETで告知する。

国際専修コース科目一覧 (ILA) / 対象学生：2014~2012年度生

	Year 履修 年次	Registration Code 登録コード		Course Name, Class 科目名・クラス	Instructor 担当者	Term 期間	Credits 単位	Remarks 備考	
		Course Code 科目コード	Class Code クラスコード						
Japanese Society and Global Culture Cluster	Introductory	1-	12050101		Introduction to Contemporary Socio-Cultural Studies	Bruce WHITE	Spring	2	
			12050102		Introduction to Japanese History	David UVA	Spring	2	
			12050103		Introduction to Japanese Culture	Omar Yusef BAKER	Fall	2	
			12050104		Introduction to Japanese Religion	Catherine LUDVIK	Fall	2	
			12050105		Introduction to Japanese Society	Isabel FASSBENDER	Spring	2	
			12050106		Introduction to Japanese Education	Gregory POOLE	Spring	2	
			12050107		Media in Contemporary Japan	Sally MCLAREN	Fall	2	
			12050108		Japanese Traditional Arts	Haruhisa KAWAMURA	Fall	2	
			12050503		Introduction to Globalization	Gregory POOLE	Spring	2	
			12050504		World Civilizations	Masumi IZUMI	Fall	2	
	Intermediate	2-	12050109		Japanese Modern Philosophy	Michel DALISSIER	Fall	2	
			12050110		Japanese Modern and Contemporary Literature	Thomas HACKNER	Spring	2	
			12050111		The Emperor System in Modern Japanese History	David UVA	Fall	2	
			12050112		Pop and Youth Culture in Japan	Omar Yusef BAKER	Spring	2	
			12050113		Labor in Contemporary Japan	Not Offered		2	
			12050114		Social Issues in Contemporary Japan 1	Yumi MATANO	Fall	2	
			12050115		Gender in Contemporary Japan	Not Offered		2	
			12050116		Social Welfare in Contemporary Japan	Not Offered		2	
			12050505		Social Foundations of Language	Gregory POOLE	Fall	2	
			12050506		Asian Civilizations	Philip Alan STREICH	Spring	2	
	Advanced	3-	12050507		Modern Japanese History	David UVA	Fall	2	
			12050117		Japanese Aesthetics	Not Offered		2	
			12050118		Buddhism and Zen in Japan	Catherine LUDVIK	Spring	2	
			12050119		Multiculturalism in Contemporary Japan	Gregory POOLE	Fall	2	
			12050120		Ethnicity in Japan	Isabel FASSBENDER	Fall	2	
			12050121		Japan in the World: Cultural Flows and Transitions	Gavin J. CAMPBELL	Spring	2	
			12050122		Issues of Youth in Contemporary Japan	Not Offered		2	
			12050123		Social Issues in Contemporary Japan 2	Bruce WHITE	Fall	2	
			12050124		Social Stratification and the Class System in Japan	Diane HARING	Spring	2	
			12050508		Colonialism and Imperialism	David UVA	Spring	2	
General Elective Courses	1-	12050522	001	Special Lecture Series (Song Anthropology)	① Felicity GREENLAND	Fall	2		

- △ 上記科目は、国際専修コースの選考を通過した学生のみが履修できる。
- △ 文学部生は、上記以外のILA科目を履修することはできない。
- △ 時間割および教室は、ILA授業時間割表で確認すること(文学部授業時間割表には掲載されない)。
ILA授業時間割表の配付方法は、別途掲示またはDUETで告知する。
- △ シラバスは、ILAのHP【<http://ila.doshisha.ac.jp/>】で確認すること。

サイエンスコミュニケーター養成副専攻

合計 (単位)	サイエンスリテラシー科目群	コミュニケーター関連科目群			
		選択(1)	選択(2)	選択(3)	選択(4)
20	12	8			
	科目名 サイエンスリテラシー	科目名 生命系	科目名 文系	科目名 政策系	科目名 経済系
	科学技術概論Ⅰ 科学技術概論Ⅱ アウトリーチ実習 サイエンスライティング サイエンスとインテリジェンス サイエンス・ナウ1 サイエンス・ナウ2 サイエンス・ナウ3 サイエンス・ナウ4 サイエンス・ナウ5 サイエンス・ナウ6 インターンシップ/ワークショップ インターンシップⅠ ※1 インターンシップⅡ ※1 ビジネスワークショップ ※2 メディカルワークショップ ※2	人体の構造と機能Ⅰ 生命医科学概論 臨床医学概論 公衆衛生学 生物学 生物情報概論 生化学 アンチエイジング 機能性食品医学	科学哲学(1) 科学哲学(2) 哲学概論(1) 哲学概論(2) 倫理学概論(1) 倫理学概論(2) 社会系 情報社会学 仕事の社会学 災害社会学 社会福祉入門 医療福祉論 障害者福祉論Ⅰ 障害者福祉論Ⅱ 児童福祉論Ⅰ 児童福祉論Ⅱ 精神保健福祉論 ジャーナリズム論Ⅰ ジャーナリズム論Ⅱ メディア心理学Ⅰ メディア心理学Ⅱ 比較メディア論 マルチメディア論 ※3 放送論 ジェンダーと教育 ※4 ジェンダーと人間形成 ※5 心理系 リスク心理学 生理心理学 ※4 生理心理学(神経・生理心理学) ※5	環境政策 ジェンダー政策 社会調査入門 ジェンダーと福祉 環境法	経済学概説 日本経済入門 経済学の歴史 IT基礎論1 初級ミクロ経済学 初級マクロ経済学 統計 経済史 環境と資源 IT基礎論2 科学と技術

△ ※1 2016年度以前生向け科目
 △ ※2 2017年度以降生向け科目

△ 各選択グループから算入されるのは、グループごとに上限4単位まで。

△ ※3 2016年度以前の修得単位のみ認定
 △ ※4 2017年度以前生向け科目
 △ ※5 2018年度以降生向け科目

副専攻のねらい

社会問題につながる科学技術分野、なかでも健康と環境に関わる分野の基礎理解と評価力の習得を目指す。

履修上の注意

- (1) 本副専攻の認定科目には、通常履修することができない他学部設置科目が含まれる。受講するためには後述の選考に通過する必要がある、選考を通過していない者は当該科目を履修することはできない。
- (2) サイエンスリテラシー科目群12単位以上、コミュニケーター関連科目群8単位以上、合計20単位以上を履修する。ただし、各選択グループ（選択（1）～選択（4））から算入されるのは、グループごとに上限4単位までである。
- (3) 修得した単位は「他学科・他学部等設置科目」として卒業単位に算入される。ただし、文学部設置科目については、学科によって取り扱いが異なるため注意すること。

選考について

本副専攻の履修に際して、下記の通り希望者に対して選考を行う。

- (1) 選考時期
秋学期に希望者を募集する。(2019年度は、2019年1月または2月に募集予定)
上記以外の時期には募集を行わない。
- (2) 選考方法
成績及び出願書類により選考する。
- (3) 詳細について
日程・応募方法などは、詳細が決定次第、掲示またはDUETで告知する。

科目登録について

- (1) 上記選考に通過した者は、履修科目の登録を一般登録受付期間に各自DUETで行うこと。
▶先行登録科目については、「登録要領」を参照すること。
- (2) 科目コード等は、後述の「サイエンスコミュニケーター養成副専攻認定科目一覧」を参照すること。
- (3) 一度選考を通過した者は、以後選考を受けることなく科目登録することができる。

科目群

サイエンスリテラシー科目群

履修年次	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間時間	校地	単位	履修条件など
	科目コード	クラスコード						
サイエンスリテラシー 2~	11433502	001	科学技術概論Ⅰ ①	石浦 章一	春2	田	2	科学技術概論Ⅰ 副専攻履修許可者のみ登録できる。
		051	科学技術概論Ⅰ ⑤①	石浦 章一		今		
	11433503	001	科学技術概論Ⅱ ①	藤本 昌代	春2	田	2	科学技術概論Ⅱ 副専攻履修許可者のみ登録できる。
		051	科学技術概論Ⅱ ⑤①	松村 淳		今		
	11433504	001	アウトリーチ実習 ①	石浦 章一	秋2	田	2	アウトリーチ実習 副専攻履修許可者のみ登録できる。
		051	アウトリーチ実習 ⑤①	志柿浩一郎		今		
	11433505	001	サイエンスライティング ①	石浦 章一	春2	田	2	サイエンスライティング 副専攻履修許可者のみ登録できる。
		051	サイエンスライティング ⑤①	石浦 章一		今		
	11433517	001	サイエンスとインテリジェンス ①	佐藤 優	秋2	田	2	サイエンスとインテリジェンス 副専攻履修許可者のみ登録できる。
		051	サイエンスとインテリジェンス ⑤①	佐藤 優		今		
	11433506	001	サイエンス・ナウ1 ①	石浦 章一	秋2	田	2	サイエンス・ナウ1 副専攻履修許可者のみ登録できる。
		051	サイエンス・ナウ1 ⑤①	石浦 章一		今		
	11433507	001	サイエンス・ナウ2 ①	野口 範子 池川 雅哉 西川喜代孝 市川 寛 米井 嘉一 祝迫 恵子 舟本 聡 小林 聡 齋藤 直人 斎藤 芳郎	春2	田	2	サイエンス・ナウ2 副専攻履修許可者のみ登録できる。
				051		サイエンス・ナウ2 ⑤①		
	11433508	001	サイエンス・ナウ3 ①	野口 範子 坂野上 淳 竹田 青磁 竹内 弘一 吉田 雅一 奥野 敦史 西沢 邦浩 長谷川聖治	春2	田	2	サイエンス・ナウ3 副専攻履修許可者のみ登録できる。
				051		サイエンス・ナウ3 ⑤①		
	11433509	001	サイエンス・ナウ4 ①	石浦 章一	秋2	田	2	サイエンス・ナウ4 副専攻履修許可者のみ登録できる。
		051	サイエンス・ナウ4 ⑤①	定松 淳		今		

科目群

サイエンスリテラシー科目群

	履修年次	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間時間	校地	単位	履修条件など	
		科目コード	クラスコード							
サイエンスリテラシー	2~	11433510	001	サイエンス・ナウ5 ①	池川 雅哉 西口 芳伯 宮野前 健 坪井 知正 岡 伸幸 佐藤 敦夫	春2	田	2	サイエンス・ナウ5 副専攻履修許可者のみ登録できる。	
			051	サイエンス・ナウ5 ⑤1	佐藤 敦夫					今
		11433514	001	サイエンス・ナウ6 ①	齋藤 直人 舟本 聡 斎藤 芳郎 祝迫 恵子 市川 寛 小林 耕太 大江 洋平	秋2	田	2	インターンシップⅠ 2016年度以前生のみ登録できる。 副専攻履修許可者のみ登録できる。 先行登録科目である。	
									051	サイエンス・ナウ6 ⑤1
	インターンシップ ワークショップ	2~	11433511		インターンシップⅠ	野口 範子	春・集中	田	2	サイエンス・ナウ5を登録中もしくは履修済みであること。 先行登録科目である。
			11433512		インターンシップⅡ	池川 雅哉 野口 範子	春・集中	田	2	サイエンス・ナウ5を登録中もしくは履修済みであること。 先行登録科目である。
11433515				ビジネスワークショップ	野口 範子	春・集中	田	2	サイエンス・ナウ5を登録中もしくは履修済みであること。 先行登録科目である。	
11433516				メディカルワークショップ	池川 雅哉 野口 範子	春・集中	田	2	サイエンス・ナウ5を登録中もしくは履修済みであること。 先行登録科目である。	

科目群

コミュニケーター関連科目群

履修年次	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間時間	校地	単位	履修条件など
	科目コード	クラスコード						
2~	11433008	001	人体の構造と機能 I ①	池川 雅哉 市川 寛 角田 伸人 鳥井 裕子 野土 信司 堀 哲也 田中 雅樹 浅沼光太郎 川村 和之 角 謙介 松田 賢一	春2	田	2	人体の構造と機能 I 副専攻履修許可者のみ登録できる。
		002	人体の構造と機能 I ②	池川 雅哉 市川 寛 角田 伸人 鳥井 裕子 野土 信司 堀 哲也 田中 雅樹 浅沼光太郎 川村 和之 角 謙介 松田 賢一	秋2			

選択(1)

生命系

科目群 コミュニケーター関連科目群

履修年次	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間時間	校地	単位	履修条件など	
	科目コード	クラスコード							
1~	11433001	001	生命医科学概論 ①	野口 範子 西川喜代孝 市川 寛 米井 嘉一 祝迫 恵子 小林 聡 舟本 聡 齋藤 直人 斎藤 芳郎 池川 雅哉 宮坂 知宏 堀 哲也 浦野 泰臣 高橋 美帆	春2	田	2	生命医科学概論 副専攻履修許可者のみ登録できる。	
		002	生命医科学概論 ②	野口 範子 西川喜代孝 市川 寛 米井 嘉一 祝迫 恵子 小林 聡 舟本 聡 齋藤 直人 斎藤 芳郎 池川 雅哉 宮坂 知宏 堀 哲也 浦野 泰臣 高橋 美帆	秋2				
		11433007	臨床医学概論	祝迫 恵子 高木 智久 角 昭一郎 平野 正満 多田 勇介 ラーマニョーガオ パーオバット 石丸 庸介 ト部 諭 濱岡 建城 岩田 辰吾 阪本 宇正	春2	田	2		臨床医学概論 副専攻履修許可者のみ登録できる。
		11439005	公衆衛生学	米井 嘉一 八木 雅之 ラーマニョーガオ パーオバット	春2	田	2		公衆衛生学 先行登録科目である。

選択(1)
生命系

科目群

コミュニケーター関連科目群

履修 年次	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	校地	単位	履修条件など	
	科目コード	クラスコード							
選択(1)	1～	11433002	001 生物学	① 高橋 美帆 浦野 泰臣 和久 剛 角田 伸人	春2	田	2	生物学 副専攻履修許可者のみ登録できる。 生化学 副専攻履修許可者のみ登録できる。 アンチエイジング 副専攻履修許可者のみ登録できる。 機能性食品医学 副専攻履修許可者のみ登録できる。	
		002 生物学	② 高橋 美帆 浦野 泰臣 和久 剛 角田 伸人	秋2					
	2～	11422102		生物情報概論	太田 哲男	秋2	田		2
		11422015	001 生化学	① 太田 哲男	春2	田	2		
	002 生化学	② 太田 哲男	秋2						
	3～	11433108		アンチエイジング	米井 嘉一 高部 稚子	春2	田		2
11433109			機能性食品医学	市川 寛	秋2	田	2		
選択(2)	3～	10240107	001 哲学概論(1)	① 休 講			2		
			051 哲学概論(1)	⑤ 庭田 茂吉	春2	今			
		10240108	001 哲学概論(2)	① 休 講		2			
			051 哲学概論(2)	⑤ 庭田 茂吉	秋2		今		
	2～	10240081		科学哲学(1)	新 茂之	春2	今	2	
		10240082		科学哲学(2)	新 茂之	秋2	今	2	
	3～	10240109	001 倫理学概論(1)	① 林 克樹	春2	田	2		
			051 倫理学概論(1)	⑤ 林 克樹					
		10240110	001 倫理学概論(2)	① 林 克樹	秋2	田	2		
			051 倫理学概論(2)	⑤ 林 克樹					
	2～	10912113		情報社会学	藤本 昌代	秋2	今	2	
		10912115		災害社会学	休 講			2	
	1～	10922005		社会福祉入門	黒木 保博	春2	今	2	
	2～	10932143		メディア心理学Ⅰ	休 講			2	
		10932144		メディア心理学Ⅱ	休 講			2	
		10932147		マルチメディア論	阿部 一晴	春2	今	2	
		10932106		比較メディア論	勝野 宏史	秋2	今	2	
		10932149		放送論	西村 秀樹	秋2	今	2	
		10912114		仕事の社会学	藤本 昌代	春2	今	2	
	1～	10922175		児童福祉論Ⅰ	桐野由美子	秋2	今	2	
		10922176		児童福祉論Ⅱ	梅山 佐和	秋2	今	2	
		10922171		障害者福祉論Ⅰ	樽井 康彦	春2	今	2	
		10922172		障害者福祉論Ⅱ	樽井 康彦	秋2	今	2	
		10922168		医療福祉論	野村 裕美	春2	今	2	
2～	10922187		精神保健福祉論	加藤 博史	春・秋2	今	4		
1～	10952117		ジェンダーと教育	吉原 恵子 山田 礼子	秋	今	2		
	10952120		ジェンダーと人間形成	吉原 恵子 山田 礼子	秋	今	2		
2～	10932110		ジャーナリズム論Ⅰ	休 講			2		
	10932111		ジャーナリズム論Ⅱ	休 講			2		
2～	11700315		リスク心理学	中谷内一也	秋2	田	2		
	11700201		生理心理学	畑 敏道	秋2	田	2		
	11700211		生理心理学(神経・生理心理学)				2		

科目群

コミュニケーター関連科目群

履修年次	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間時間	校地	単位	履修条件など	
	科目コード	クラスコード							
1～	1～	10702038		社会調査入門	松村 憲一	秋2	今	2	社会調査入門 環境法 環境政策 ジェンダーと福祉 ジェンダー政策 副専攻履修許可可のみ登録できる。
	3～	10702257		環境法	小谷 真理	秋2	今	2	
	2～	10701503		環境政策	内藤登世一	春2	今	2	
		10702214		ジェンダーと福祉	寺本 尚美	秋2	今	2	
		10701510		ジェンダー政策	川口 章	春2	今	2	
1～	10407001	001	①	経済学概説	北川 雅章 竹廣 良司 新関三希代	春2	今	2	
		002	②	経済学概説	北川 雅章 竹廣 良司 新関三希代				
		003	③	経済学概説	北川 雅章 竹廣 良司 新関三希代				
	10407002	001	①	日本経済入門	宮本 大 鹿野 嘉昭 八木 匡	春2	今	2	
		002	②	日本経済入門	宮本 大 鹿野 嘉昭 八木 匡				
		003	③	日本経済入門	宮本 大 鹿野 嘉昭 八木 匡				
	10407003	001	①	経済学の歴史	西岡 幹雄 小野塚佳光 谷村 智輝	春2	今	2	
		002	②	経済学の歴史	西岡 幹雄 小野塚佳光 谷村 智輝				
		003	③	経済学の歴史	西岡 幹雄 小野塚佳光 谷村 智輝				
	10407004	501	㊦	IT基礎論1	宮崎 耕	春2	インタ	2	
		502	㊧	IT基礎論1	宮崎 耕	秋2			
	10407051	001	①	初級ミクロ経済学	小橋 晶	秋4	今	4	
		002	②	初級ミクロ経済学	田中 靖人				
		003	③	初級ミクロ経済学	宮澤 和俊				
		004	④	初級ミクロ経済学	茂見 岳志	春4			
10407052	001	①	初級マクロ経済学	久保徳次郎	春4	今	4		
	002	②	初級マクロ経済学	東 良彰					
	003	③	初級マクロ経済学	四谷 晃一					
	004	④	初級マクロ経済学	北坂 真一	秋4				
10407054	001	①	統計	八木 匡	春4	今	4		
	002	②	統計	角井 正幸					
	003	③	統計	新関三希代					
	004	④	統計	八田 英二	秋4				

科目群

コミュニケーター関連科目群

履修 年次	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	校地	単位	履修条件など
	科目コード	クラスコード						
選択(4) 経済系	1~	10407055	001 経済史 ①	菅 一城 福岡 正章 横井 和彦	秋2	今	2	
			002 経済史 ②	菅 一城 福岡 正章 横井 和彦				
			003 経済史 ③	菅 一城 福岡 正章 横井 和彦				
			004 経済史 ④	横井 和彦 布留川正博 奥田 以在	春2			
	2~	10407056	001 環境と資源 ①	岸 基史	春4	今	4	
			002 環境と資源 ②	石田 葉月				
			003 環境と資源 ③	和田 喜彦	秋4			
			004 環境と資源 ④	三俣 延子				
	1~	10407057	501 IT基礎論2 ㉔	宮崎 耕	秋2	インタ	2	
	2~		502 IT基礎論2 ㉕	宮崎 耕	春2			
1~	10407802		科学と技術	茂見 岳志	春2	今	2	

2018年度 開講科目

人材養成目的

文学部は、キリスト教主義・自由主義・国際主義に基づく人間形成を根本的な教育理念として、人文学の専門諸領域における教育・研究をとおして、現代のグローバル社会の諸課題に自立的かつ実践的に対応する力を備えた人物を養成することを目的とする。そのために、演習・ゼミなどを中心にした少人数教育をとおして、各専門分野における基礎的な知識を修得したうえで、さらに、副専攻制度等を活用して、より幅広い有機的な教養の涵養を目指す。

■ 39頁 ■

英文学科

■ 85頁 ■

哲学科

■ 115頁 ■

美学芸術学科

■ 133頁 ■

文化史学科

■ 199頁 ■

国文学科

■ 219頁 ■

免許・資格関係科目

開講科目表の見方

履修年次

履修ができる学年を示します。

例) 2～ : 2年次以上で履修できる科目です。

2 : 2年次で履修すべき科目です。

2のみ : 2年次の学生のみ履修できる科目です。

登録コード

科目を特定する「科目コード」とクラスを特定する「クラスコード」で構成されています。クラスコードが明記されている科目は、科目登録の際、両方の正しいコードで登録してください。

科目名・クラス

○で囲んだ数字はクラスを示します。

科目名が同じで、クラス番号が違う科目は、特別に認められている科目を除いて、2クラス以上履修することはできません。

期間・時間

授業の開講される期間と週時間を表します。

春2 : 春学期に開講。週2時間（1講時）

秋2 : 秋学期に開講。週2時間（1講時）

春・集中 : 春学期に開講。集中科目。

春 : 春学期に開講。（時間の指定がない）

秋 : 秋学期に開講。（時間の指定がない）

春・秋2 : 春学期～秋学期（通年）に開講。週2時間（1講時）

春・秋 : 春学期～秋学期（通年）に開講。（時間の指定がない）

校 地

授業が開講される校地を表します。

田 : 京田辺校地

今 : 今出川校地

交流セ : 大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）

リトリート : 同志社びわこリトリートセンター

インタ : インターネット講義

他学科他学部生履修（表示では「他学部生」）

可 : 他学科、他学部の学生も履修ができる科目です。

不可 : 他学科、他学部の学生は履修ができない科目です。

聴講生履修（表示では「聴講生」）

可 : 聴講生が履修できる科目です。

不可 : 聴講生は履修ができない科目です。